

これからの狩猟の担い手 ～森林官ハンターとしてエゾシカ対策を考察～

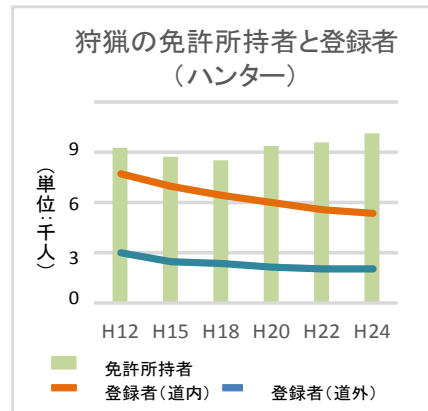
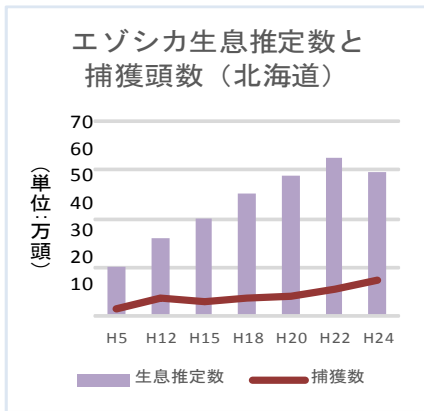
北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事務管理官（管理担当） 中西 誠

1 課題を取り上げた背景

近年、エゾシカ対策の担い手であるハンターの高齢化・減少が問題となっているとともに、国有林で狩猟事故等が発生していることから、ハンターへのアンケート調査等を行い、自身がハンターとして狩猟を行っている立場から今後の狩猟の担い手について考察しました。

2 取組の経過

北海道内のエゾシカ生息推定数は増え続けてきましたが、捕獲頭数が増加したことにより平成24年度は減少しています。エゾシカを捕獲するには、狩猟免許を取得するとともに狩猟者登録が必要です。狩猟免許所持者は増加してきましたが、狩猟者登録者（ハンター）は減少してきています。また、ハンターのマナーの低下などが指摘されています。



（環境省平成22年度鳥獣保護管理委員会(北海道説明)資料、北海道統計資料より作成）

このようなことから、ハンターの現状や問題点等を把握し、エゾシカ対策に有効な方策を検討するため、ハンターへのアンケート調査及びハンターの育成等に関する海外事例の調査を行いました。

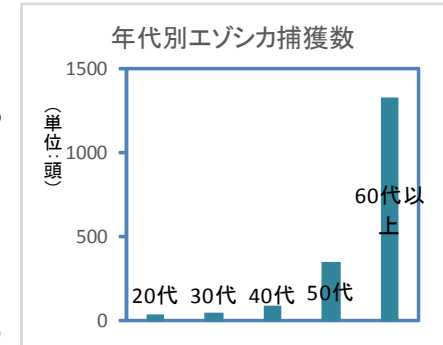
3 実行結果

①ハンターへのアンケート

エゾシカ捕獲の中心となっているベテランハンターの半数以上が60才以上の高齢者です。

②海外の事例について

狩猟は林業技術の一部との考えもあり、趣味ハンターと職業ハンターに分けることが出来ます。また、職業ハンターの資格制度があります。



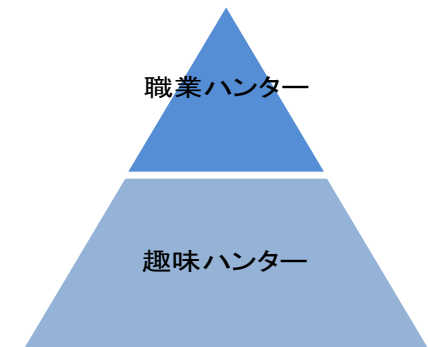
（北海道猟友会北見支部会員へのアンケート調査結果より）

4 考察

現在、エゾシカを捕獲している主たるハンターの多くは、高齢のベテランであるが、これらの人々は近々引退することが予想されることから、講習会などを通じ、狩猟技術やマナー等の質の高いハンターを育成・確保することが重要です。

また、海外の事例のように狩猟を職業とする気運が高まっていくことに期待しています。

森林管理署では、エゾシカの食痕や糞等の有無による生息形跡調査をしており、こういった情報の提供や活用について検討したいと考えています。



（海外のハンター体制イメージ図）